

令和4年度評価

輪之内町教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況報告書

令和5年4月

輪之内町教育委員会

目 次

第1章 点検評価結果の概要

| | |
|---------------------|---|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. 点検評価の実施について | 1 |
| (1) 「学校教育」の執行状況について | 1 |
| (2) 「社会教育」の執行状況について | 1 |
| 3. 点検評価結果全体の概要 | 2 |

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

| | |
|----------------|-----|
| 1. 教育委員会の活動の状況 | 3 |
| 2. 事務事業の執行状況 | 3～4 |

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに

輪之内町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和4年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告をここにまとめました。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による視察等の調査活動と教育委員会が令和4年度に実施した事務事業の中から主要な20領域について、実績や成果と課題を記述し、次に示す5区分で達成度を評価しました。

<評価について>

点検評価においては、次の5区分により達成度の評価を行いました。

| 評 定 | 内 容 | 容 |
|-----|------------------|-------------|
| A | 順調に達成しているもの | 80%以上 |
| B | おおむね順調に達成しているもの | 50%以上 80%未満 |
| C | 達成見込みであるが順調でないもの | 20%以上 50%未満 |
| D | 順調でないもの | 20%未満 |
| — | 評価不能 | 事業未実施 |

(1)「学校教育」の執行状況について

学校教育について、評定と数値で評価することとしました。

町内小中学校に勤務する教職員の自校評価を点数化して、町内の学校の平均値を求めました。比較するために過去のデータをもとに点数化しました。

評定だけでは分からない細やかな変化から、次年度への課題は明確にできるようにしました。

(2)「社会教育」の執行状況について

社会教育について、評定で評価することとしました。

各担当者が参加者の感想やアンケート、自己評価などで総合的に行いました。

3. 点検評価結果全体の概要

| | |
|-------------------------------------|----------------|
| ◇ 教育委員会の活動状況 | |
| ① 教育委員会会議の状況・・・・・・・・・・順調に達成している (A) | |
| ② 調査活動の状況・・・・・・・・・・順調に達成している (A) | |
| ◇ 事務事業の執行状況 | |
| A 順調に達成しているもの・・・・・・・・・・ | 6/20 事業 (30%) |
| B おおむね順調に達成しているもの・・・・・・・・ | 13/20 事業 (65%) |
| C 達成見込みであるが順調でないもの・・・・・・・・ | 0/20 事業 (0%) |
| D 順調でないもの・・・・・・・・・・・・・・・・ | 0/20 事業 (0%) |
| ー 評価不能・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1/20 事業 (5%) |

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動状況

別紙「点検評価シート」のとおり

2. 事務事業の執行状況について

別紙「点検評価シート」のとおり

教育委員会の活動状況

| 点検項目 | 実績 | 成果と課題 | R4評価 | R3評価 | R2評価 |
|---------------|--|---|------|------|------|
| 教育委員会会議等の実施状況 | 【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12 回 臨時会議 1 回 審議件数: 専決報告 0 件 議案 19 件 内可決 19 件 【総合教育会議】 2 回 【町教委学校訪問】 4校実施 | 【成果】 ・毎月、定例教育委員会を開催することができた。 ・事務局提案のみではなく委員からの協議事項の発議等、活発な意見交換が行われた。 【課題】 ・教育委員の「学校訪問」への参加が難しいことがあった。 ・令和4年度の委員会の傍聴者が皆無であった。 | A | A | A |
| 調査活動の状況等 | ・全国町村教育長定期総会 (5月16日・17日) ・西濃地区教委連絡協議会総会・教育委員研修会 (6月10日) ・教育長及び教育長職務代理視察研修会 (中止) ・岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会 (11月11日) ・町研究発表会 (福東小学校 11月17日) ・郡教育委員研修視察 (中止) | 【成果】 ・6月10日開催の西濃地区教委連絡協議会総会・教育委員研修会を輪之内町文化会館で実施した。研修会では、輪之内町の地域学校協働活動について、田中俊弘輪之内町本部長と増田浩志仁木小学校長が講演を行った。輪之内町地域学校協働本部の立ち上げからこれまでの活動について発表し、多くの方に知っていただくよい機会となった。 【課題】 ・町内小中学校の研究発表会の参観等を通して感じたことについて、意見交換をさらに行うことや、学力向上のために各学校の取組を支援できるような体制づくりをする。 | A | A | - |

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。

| 領域 | 重点目標 | 成果と課題 | R4評価 | R3評価 | R2評価 |
|-------------------------------|--|--|------|------|------|
| 学校経営 | 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。 | ○勤務時間カードを導入により、勤務時間をより正確に把握することができた。 ○勤務時間を意識し、働き方をマネジメントできるようになってきている教職員が増えてきている。 ▲時間外在校等時間(月45時間・年間360時間)を意識して勤務しているが、業務が多く守れないことがあるため、優先順位を明確にして業務にあたる。 | A | A | A |
| | | 84.1 | 82.6 | 81.1 | |
| 研修 | 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。 | ○定期的に研修が計画されると共に、ロールプレイなど参加型にしたり、短時間でできるミニ研修にしたりして、内容や時間を工夫しながら効果的な研修を実施することができた。 ○保健安全面では、緊急の事態を想定して実践的な研修ができた。 ▲来年度より各学校に研修主事の配置が義務化される。研修主事を中心とした組織的・計画継続的な研修の実施をする。 | A | A | B |
| | | 80.0 | 86.9 | 71.2 | |
| 教科指導 | 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。 | ○ICTを活用しながら、対話を通して児童の考えが深まるように交流の仕方を丁寧に教えたり、対話モデルを示したりすることができた。 ○全校研究会を中心的に、主体的に対話的な授業を目指し、指導案検討や、模擬授業などを行い、授業力の向上につなげることができた。 ▲教師が過過ぎず、児童が主体的に学ぶことができるようにする。(課題・まとめを児童の言葉で書かせる。) | B | A | B |
| | | 73.4 | 81.5 | 69.7 | |
| 道徳教育 | 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。 | ○いのちの教育に関わり、外部講師を招いて授業を行ったことで、児童の心にひびく授業ができた。 ○道徳の時間だけでなく、一人一人が大切な存在であり、命が一番大切であることを様々な活動を通して子どもたちに伝えることができた。 ▲授業で学んだ価値項目について、日常で意識・実践ができていくか見届けを行い、よさを広めていくことを全学年で実践する。 | B | A | B |
| | | 75.0 | 80.2 | 75.9 | |
| 外国語活動 | 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。 | ○外国語専科と、ALTの連携がうまくとれており、子どもたちが主体的にコミュニケーションがとれる授業実践ができた。 ○パフォーマンスを通して、一人一人の付けるべき力を把握し、指導に生かすことができた。 ▲外国語の授業中だけでなく、休み時間等にALTとの交流できる場を設定し、慣れ親しむ場を増やす工夫をする。 | B | A | B |
| | | 78.6 | 83.6 | 75.0 | |
| 総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育) | 探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 | ○総合的な学習を核とした、教科横断的な単元指導計画を作成することで、他教科で活用した知識を総合的な学習に生かそうという意識をもつことができた。 ○地域の保存会や専門的な方を外部講師による出前授業を位置づけ、深い学びができた。 ▲単元指導計画に探究の視点を取り入れる。 | B | B | B |
| | | 76.3 | 78.9 | 66.3 | |
| 特別活動 | 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 | ○OQU検査の分析から、配慮すべきことを意識して指導ができた。 ○行事の願いをもつ場、問題解決の場、振り返りの場を設定し、自治力を高めることができた。 ▲自分のよさを話せる児童が少ないので、他人のよさを見つける活動を行いつつ、自分のよさを話すことができる機会も増やす。 | B | A | B |
| | | 77.4 | 84.3 | 73.1 | |
| 生徒指導 | 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。 | ○打ち合わせで気になる児童の交流を取り入れることで、自分の学年だけでなく、他学年の様子を共通理解することができた。 ○アンケートにより、子どもたちの現状についてよくとらえることができた。教育相談も丁寧に行われ、困り感を小さい内に取り除くことができた。 ○「ぎふいのちの教育」について適時放送等で全校に啓発することができた。 | A | A | A |
| | | 82.8 | 84.1 | 81.4 | |
| キャリア教育 | 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。 | ○消費者教育など、職業観を育成する体験活動が行われ、日常の指導に生かすことができた。 ○町探検や菊の栽培体験で、地域のことを知ることができた。活動を通して輪之内町のことに誇りをもつことができた。 ▲行事後に児童がキャリアパスポートを書いて終わってしまうことが何度かあった。自分たちの役割と勤労観や職業観を関わらせて、継続してキャリア教育を行えるようにする。 | B | B | B |
| | | 70.1 | 72.1 | 63.4 | |

| | | | | | |
|-------------|--|--|------|------|------|
| 健康安全教育 | 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。 | ○年間計画に沿って、洪水、Jアラートの訓練などいろいろな想定で命を守る訓練を継続的・計画的に実施ができた。 ○中学校2年生は防災士講座で防災に対する意識を高め、救命救急法も体験できた。 ▲体育の授業では、運動時間を十分確保し、運動能力を高める指導を確実に行う。コロナウイルス感染拡大前に戻せる活動は戻していき、体力の向上を図る。 | A | A | B |
| | | | 82.3 | 85.3 | 76.3 |
| 特別支援教育 | 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。 | ○校内支援委員会の実施や個別の支援計画の作成、ケース会議の実施などにより、一人一人の特性に合わせた支援を行うことができた。 ○コーディネーターや主幹教諭、指導教諭を中心に児童の実態に合わせた支援体制づくりができた。 ▲校内研修で特別支援教育について学ぶ場を継続していく。また、PTA総会、学校だより等で保護者の方への啓発も行う。 | B | A | B |
| | | | 78.0 | 84.9 | 76.8 |
| 人権教育 | 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。 | ○日頃からいじめや差別を見逃さないように全職員で見届け、誰かを傷つけるような行為には毅然とした態度で対応できた。 ○かがやき見つけの取り組みを継続して行ったことで、仲間のおいところを見つけよう意識させることができた。 ▲SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化を図る。 | A | A | A |
| | | | 81.7 | 83.9 | 83.3 |
| ICT教育・図書館教育 | 教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。 | ○校内研究会やICT活用研修などで協力的な学びにつながる活用について学ぶことができた。 ○タブレットを使うことを目的として2年前と比べ、課題解決の一つのツールとして活用ができた。 ▲ICTを使う時間が増えることでネット上のトラブルが増えた。町の情報モラル宣言等を活用し、正しいネットとの付き合い方ができるように指導する。 | A | A | A |
| | | | 80.4 | 86.6 | 82.8 |

社会教育

| 領域 | 重点目標 | 成果と課題 | R4評価 | R3評価 | R2評価 |
|-----------------|---|--|------|------|------|
| 家庭教育 | 家庭教育に関する学習機会の提供。 子育ての支援と教育環境の整備。 地域づくり会議やPTA等の連携。 | ○新型コロナ感染予防のため事業が縮小され、各園各校とも在宅型取組型が行われた。こども園は、年間を通して「おやくそく」を各家庭で取り組んだ。参加率は約85%であった。小中学校は、長期休暇中に、親子レンビ・親子工作・お手伝い等を実施した。参加率はほぼ100%であった。 △町主催の合同家庭教育学級は、外部講師による講演型を年間3回実施した。新型コロナ感染予防のため参加者が少なかった。 | B | B | A |
| 地域教育 | 子どもたちの社会参加・地域活動の促進。 | ○青少年育成町民会議に関わる地域作り諸行事にかかわって小中学生がネットモラルに関わる標語等の募集に積極的に参加できた。 △「輪之内町情報モラル宣言」を家庭・学校で取り組んだが、新型コロナウィルス感染症予防のため地域づくり事業は中止となった。形式を工夫するなどして継続する必要がある。 | B | B | B |
| 生涯学習環境 | 家庭、学校、地域社会が連携し、社会全体で子どもたちをはぐむ地域づくり活動の推進。 | ○高師有教室「みづは子版」を開設し、教養・健康・軽スポーツなど、その時々に対応した分野の講座を通年をとおして実施し、高齢者の生涯学習に取り組んだ。新型コロナ感染予防のため参加者は少なかった。 △青少年育成町民会議に関わる地域づくりの諸行事を、新型コロナ感染予防のため規模や回数を縮小して実施し、豊かな体験活動、健全な社会環境づくりを進めた。 ○小学生対象の総合的な体験学習講座である「わのうち未来塾」を、新型コロナ感染予防のため定員を30名に減らして実施した。希望者が多く約6割しか参加できなかった。子ども体験学習は、新型コロナ感染予防のため中止した。 | B | B | B |
| 生涯学習体制・指導者 | 地域における主体的な社会教育活動を支援する取組の推進。 | ○町および地区の青少年育成推進員の方のご尽力により、各地区における活動が関係諸団体と連携を図りながら進められ、豊かな体験活動や啓蒙活動、健全な社会環境づくりに貢献した。 △子どもたちが主体となった活動を意図的に仕組んでいきたい。 | B | B | B |
| 芸術文化の振興 | 文化芸術活動の振興。 子どもの文化芸術体験の充実。 | ○町文化祭を3年ぶりに開催したが、例年の開催状況を見ると作品出展数が少なく、来場者も少なかった。 ○子ども対象の出前講座や「わのうち未来塾」の内容が充実していて、参加者が増えてきた。 △新しい文化サークルを開拓し、活性化を図る必要がある。 | B | - | - |
| 伝統文化と郷土の歴史の保護継承 | 文化財や伝統芸能の保存・伝承・活用への支援。 | ○小学生に対して文化財の理解をすすめるため、文化財保護審議会にて冊子「輪之内町の文化財」の小学生版の作成に継続して取り組んだ。 △伝統文化財継承(6団体)は、新型コロナ感染防止のため、4団体のみ活動を計画したが、十分な活動ができなかった。 | B | B | A |
| スポーツ推進体制 | スポーツ環境の諸整備(スポーツ推進体制の充実と施設の整備) | 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、小学校区ごとに「地区スポーツ振興会」を設置し、ふれあい運動会を計画していたが、中止となった。 △利用者増加に伴い、希望日の重複が発生している。予約システム等で使用の平等な環境を整備していきたい。 | - | - | - |
| | 生涯スポーツの振興(県民1スポーツ運動) | 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、スポーツクラブが運営する体験型のスポーツ、レクリエーションイベントは中止となった。 △直接の町組織ではないが、クラブ運営の安定化に向け、人材確保が急務である。 | | | |
| | 「県民1スポーツ運動」具現のための指導者育成 | 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、スポーツ推進委員やレクリエーション協会の有識者が、講習会等で助言する機会が無かった。地区スポーツ推進委員が参加する事業も、中止となった。 | | | |